

# 桜甫会会報

編集発行：山口県立大学同窓会桜園会  
 事務局 〒753-8502 山口市桜島3-2-1  
 TEL&FAX083(925)7485 振替口座01570-2-25095  
 メールアドレス ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp  
 印刷：(株)マルニ

Vol.63  
 平成27年3月1日発行



長坂学長とジャンケンゲーム



女専時代の思い出ー古川綾子さんー



福田会長はグー？



齊藤輝さん



和やかに談笑



手作りの御馳走いっぱい

十八歳人口の二人に一人が大学に進学する時代になりました。昭和40年代では約20万人の入学定員に対し50万人以上の志願者がいました。現在では約58万人の入学定員に対して約68万人が受験します。大学を選ばなければ、どこかの大学に入学可能になります。大学生の学力低下が問題になっています。

文部科学省は、生涯学び統一、主体的に考える力を育成するため、大学教育の質的転換を求めています。企業の活力が落ちていく中、自前で人材育成する余力がなくなり、大卒者に即戦力としての能力が求められるようになります。これに対応するため、大学教育の視点を「教員が何を教えるか」「学生はどうのように学ぶか」へ移して、学習者中心の教育プログラムを実践することが、大学教員に求められるようになります。しかし、多くの大学

大学を選ばなければ、どこかの大学に入学可能になります。大学生の学力低下が問題になっています。大学を選ばなければ、どなたかの大学に入学可能になります。大学生の学力低下が問題になっています。

文部科学省は、生涯学び統一、主体的に考える力を育成するため、大学教育の質的転換を求めています。企業の活力が落ちていく中、自前で人材育成する余力がなくなり、大卒者に即戦力としての能力が求められるようになります。これに対応するため、大学教育の視点を「教員が何を教えるか」「学生はどうないように学ぶか」へ移して、学習者中心の教育プログラムを実践することが、大学教員に求められるようになります。しかし、多くの大学

## 変わる大学教育

山口県立大学学長 桜園会名誉会長 長坂祐二

教員には、自分が育ってきたかつての大学の風土を懐かしむ心情があり、新しい教育の必要性を頭では理解しながらも、それは自分ではなく誰か他の教員がやることだと考える傾向があります。

このような中、山口県立大学は、学生たちが地域や海外にて、幅広い人たちとの交流を通して経験を積むことの重要性を先取りして実践してきました。現在は、本学に入学してきたすべての学生が、地域社会での活動や国際交流を体験できるよう、総合的教育プログラムを整備しているところです。

大学の使命の第一義は、人材育成です。時代の要請に応えることができる人材を育成するため、日々成長する学生たちの姿を見ながら、全教職員を挙げて教育改善に取り組んでいます。桜園会の皆様には、これからもよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。



未来への懸け橋

—五年後の輝きを見つめて—

山口県立大学副学長  
岩野 雅子



平成六年本学に着任し、桜圃会  
学内理事を務めてまいりました。  
卒業生として母校に貢献する喜  
びや感謝の意を胸に、本学の新たな  
体制について一言ご紹介申し上  
げます。

本学は、平成二十六年四月から  
理事長・学長分離型という新たな

学長は教学に専念することで、平成十八

年度に法人化した大  
学をより発展させて

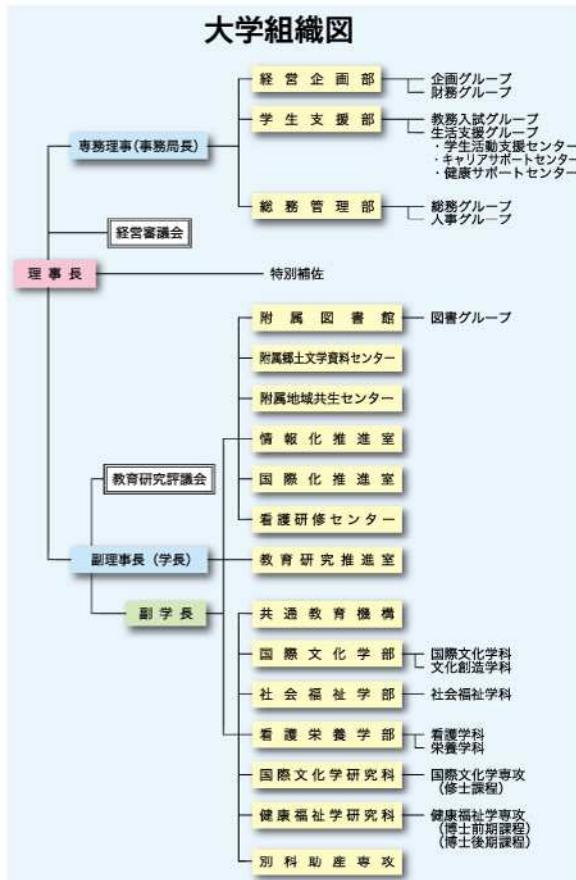
いこうという大学設置者(県)の意向にて

置者(県)の意向によるものです。江里理

事長は県知事が任命され、長坂学長は教

職員の意向を参考に  
学長選考会議で選

出されました。



すると、「一二〇一八年問題」というように、若者人口はこの時期から急激に減少します。全国の大学が直面する大きな課題であり、わずか三年後に迫っています。また、急速なグローバル化や情報化の進展により、国内外のトップクラスの大学の授業が誰でも、どこからでも視聴できる時代になります。質の高い教育や研究に世界中からアクセスできる明るい時代ですが、一方で、大学間競争がますます激化し、各大学は自らが存在す

創生、若者定着、女性の活躍、国内外に誇れる豊かな暮らしおの創造、地域文化の発信といった諸課題の解決に向け、本学の強みと伝統を活かした数々のチャレンジが進行中です。平成三十年度から始まる第三期中期計画に向けて、「一層輝きを増した大学となるべく「懸け橋」をかけるのが今の私たちの仕事です。未熟ではございますが、今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本年一月から、待望の新キャンパスの建設工事が始まりました。新キャンパスは、現在の看護棟の背後に広がる造成地を最大限に活用し、各学部・学科棟が中庭を囲んで一体感を譲り出します。素晴らしい学舎となります。

また、新キャンパス予定地は、開学六十周年事業として桜

家の意見を考慮し、苦渋の決断ではありました。必要最小限の範囲で伐採させていただき、敷地を最大限に活用した素晴らしい新キャンパスの建設を優先することといたしました。

桜の木には、皆様方お一人おひとりの本学に対する愛着が込められていることは十分に承知しております。このような事態になつたことは当初の見通しの甘さによるもので先ずおわび申し上げます。まことに残念ですが、新キャンパス完成の暁に

る意味を問われています。

かで、本学は新キャンパス建築の

山口県立大学事務局長

藤井  
哲男



新キヤンバス着工と桜の森について

山口県立大学事務局長

こうした中、第一段階の栄養学科棟と学部共通棟の整備に当たって、植樹した桜の木が工事の支障となることが県から示されました。大学としては、何とか移植できないか検討しましたが、今後、第二段階以降の工事が続くために移植場所が極端に限られることが、桜の木は移植が難しく根付きが悪いため枯れてしまう確率が高いとの専門家

また、新キャンパス予定地は、開学六十周年事業として桜園会の皆様方の多大なお力添えをいただきて植樹した桜の花が春を彩り、本学のシンボルとして見事な景観を呈しています。

ンバスの建設工事が始まりました。新キャンバスは、現在の看護棟の背後に広がる造成地を最大限に活用し、各学部・学科棟が中庭を囲んで一体感を醸し出す素晴らしい学舎となります。

大学としては、本学の将来に目を向け、皆様方と一緒に、学生の笑顔があふれるキャンパスの早期実現を目指してまいりますので、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

上げます。まことに残念ですが、新キャンパス完成の暁には、六十周年記念樹に替わるものとして、また、本学の新たな未来への第一歩を象徴するものとして、若い桜の苗を新たに植樹し、新キャンバス一面を桜の花で満たしたいと考えています。

起業された栄養学科の卒業生の  
焼き菓子も並び、温かい手作り  
感にあふれていきました。フィン  
ランドでご活躍中の大田舞さん  
がデザインされた桜圃会オリジナル  
ナルバッゲが各席におかれ、  
緑、黄、オレンジの色合いは会

他、茶道部による和の演出とお抹茶の接待、チャリティーバザーなど、さわやかな新緑の中、ここかしこで談笑の輪が広がっていました。同窓生としての一体感を感じる時間を過ごし、今後ますます山口県立大学を拠点として

人 事 罷 動

· 16 ·

- |           |           |
|-----------|-----------|
| ビギンズ・マリリン | 国際文化学部教授  |
| 田村 洋      | 国際文化学部教授  |
| 浅羽 祐樹     | 国際文化学部准教授 |
| 伊藤 幸司     | 国際文化学部准教授 |
| 重岡 修      | 社会福祉学部准教授 |
| 松尾 義和     | 社会福祉学部助手  |
| 日野 精二     | 看護栄養学部教授  |
| 山下 満枝     | 別科助産専攻教授  |
| 松尾 洋      | 共通教育機構教授  |
| 小川 雅広     | 共通教育機構教授  |

新江

- |        |              |
|--------|--------------|
| 内田 耕一  | 看護栄養学部教授     |
| 増成 直美  | 看護栄養学部教授     |
| 曾根 文夫  | 看護栄養学部准教授    |
| 矢田フミエ  | 看護栄養学部講師     |
| 佐々木満智子 | 看護栄養学部助教     |
| 久保田裕美  | 看護栄養学部助手     |
| 森山 結香  | 看護栄養学部助手     |
| 森塚 潤子  | 看護栄養学部助手     |
| 守永 郁子  | 看護栄養学部助手     |
| 清水亜依美  | 看護栄養学部助手     |
| 小野本ヒロコ | 別科助産専攻特任教員   |
| 小坂まり子  | 看護研修センター主任教員 |
| 尾川 満宏  | 学生支援部助教      |

■事務局職員転出

- 小田由紀雄 退職  
松岡 光信 農林水産政策課

■ 東教局職員表 3 (法人授用)

- 事務局職員紹介（法人採用）  
藤井 哲男 事務局長  
松永 正 総務管理部長  
・岡 香菜子 教務入試グループ主事  
・梅地三保子 総務グループ主事

談笑しながらの和やかな散策が見受けられました。交流会では、福田百合子桜園会会長、原田洋子、相本艶子両副会長をはじめ、同窓生一四四名の皆様を長坂祐二学長、岩野雅子副学長、在校生、ケラススの会がお迎えし、卒業生でもある国際文化部の安光裕子先生の司会進行で、終始和やかに交流が盛り上がりました。

山口県立大学 ホームカミングデー  
「ようこそ先輩！母校桜島へ」

別科助産専攻講師 三谷 明美

場を華やかにしました。バツグの桜の花をあしらったロゴ付きのタグは、ケラススの会員小橋先生のデザインによるもので、「小さくても存在感がある」という思いが込められたものです。

また、山口県立女子専門学校卒福田田

て時間を超えた紹介、分野を超えた紹介ができていくことを予感しました。（平成21年大学院健康福祉学博士前期修了）

五月の会では、江里理事長より

平成二十一年四月から施設使用を開始する見込みとなつたことが報告された。

次に新キャンパス予定地の桜の森について、大学と桜園会により例年行われて来た施肥作業は成育十分のため終了し、今後は病虫害防除の取組みを考えるとの報告があつた。



### 大学の現在の様子を語るクラス会員

平成26年度  
大学との情報交換会

事長は大学経営に専念する新体制となつたこと、卒業生の岩野雅子さんが副学長に登用されたことなどの説明があつた。そのほかダーバル人材育成推進事業や地元の拠点整備事業についての詳しい説明や、「さくらの森夢基金」の学生支援を目的とした執行予定などについて報告が行われた。

十一月の会では、まず大学の教育研究に資する外部資金獲得の取組みについて、統いて平成二十七年一月から新キャンパスの栄養学科棟と学部共通棟が順次着工となり

から桜のオーナーの思いを汲み取つて頂き、理解協力が得られるよう誠実な対応をお願いしたいと申し入れた。

(昭和60年児童文化大前記)

## 平成26年度桜園会総会 桜園会創立70周年記念

### 祝賀会開催



平成二十六年五月十八日(日)  
にホテルニュータナカにおいて、第  
七十回桜園会総会が開催され、総  
会に引き続き桜園会創立七十周  
年記念祝賀会も開催されました。  
当日は、一四〇名が参加され、  
大盛況となりました。

福田会長の「大学と同窓会の発  
展を祈り願い喜んで今日一日を過  
ごしましよう」とのさわやかで明  
るい挨拶から、会が始まりまし  
た。

続いて「今日まで、そして明日か  
ら」と題して、長坂祐二学長の講  
演。長坂先生のルーツが甲州武田  
家の家臣、僧侶や医者であったこ  
との紹介からお話を始まりまし  
た。県大赴任までは内科医として  
糖尿病の臨床と研究をされ、その  
後バージニア大学に留学されてい  
たのこと。県大に赴任されてか  
らは、栄養士キャリアアップ研修な  
どにも取り組まれ、その内容か  
ら、望ましい健康行動への促し、  
生活習慣改善のジレンマからど  
う抜け出すかなどについてご紹  
介がありました。生活習慣の改  
善に伴うストレスを解消するに  
は、暗闇レストランから学べと、  
いつもと違う行動(スポーツや  
映画、読書、泣くなど)は、違う  
脳の使い方ができると話されま  
した。

また、学長として、学生の多  
様化に伴い、「教員中心の教育  
(知識伝達型学習)」から「学生  
中心の教育(体験型学習)」へ転  
換し、汎用的能力を身につける  
ような人材育成を進めること、  
そしてその成長体験のサポート  
をすることが教職員の役割で  
あると力強く話されました。

講演後の創立七十周年を記  
念しての祝賀会では、福田会  
長、長坂名誉会長からの挨拶に  
続き、江里理事長からお言葉を  
いただきました。

今年は、七十周年記念とい  
うことで「あの頃の学生生活、大學  
の今」と題して、山口女子専門  
学校、山口女子短期大学、山口  
女子大学、山口県立大学、それ  
ぞれの卒業生に思い出を語つて  
いただきました。プロジェクト一  
には懐かしい映像も映しださ  
れ、七十年という歳月に積み重  
ねられた歴史の重さに思いを馳  
せることができた時間でした。

大吹奏楽団BLAZEによる「あ  
まちゃん」や「恋するフォーチュ  
ンクッキー」などが披露され、県  
大学生歌の演奏には会場がつ  
になつて歌い、心温まる穏やかな  
時間となりました。

(平成21年大学院健康福祉学  
博士前期修了 林記)

### 平成27年度 桜園会第71回総会のご案内

#### 総会

■日 時  
平成27年5月17日(日)  
午前10時～午後2時

■場 所  
木テルニュータナカ  
山口市湯田温泉2-6-24  
TEL 083(923)1313

■講 演  
(演題)  
「長州を新たな角度から見てみ  
よう!」  
(講師)  
シャルコフ・ロバート先生

■会 費  
\*出席ご希望の方は、5月6  
日(水)までに同窓会事務局  
までお知らせください。  
2659 す  
5、000円  
H1・当番幹事はS  
6・6  
1144  
卒業のクラ  
ス幹事さん  
2154  
で・  
年

■会 費  
5、000円  
H1・当番幹事はS  
6・6  
1144  
卒業のクラ  
ス幹事さん  
2154  
で・  
年

#### 平成25年度桜園会会計収支決算書 H25.4.11 (単位:円)

科 目	25年度決算額
緑 越 金	2,778,568
経 常 会 費	2,382,000
本 部 入 会 金	5,366,581
事 業 負 担 金	660,000
雜 収 入	710,819
合 計	11,897,968
支 出 費	814,874
総 会 議 費	375,940
支 部 援 助 費	967,500
会 報 作 成 費	1,207,535
公 開 講 座 費	119,168
桜 園 会 賞 費	450,610
桜の森育成事業費	51,310
会記念品費	330,750
広報活動費	190,633
旅 費	1,113,980
通 信 費	104,282
印 刷 費	0
事務局運営費	2,516,533
退職給与引当金	200,000
情報管理費	114,500
備 品 費	180,400
消耗品費	144,851
雜 費	131,581
予 備 費	0
合 計	9,014,447
次年度緑越金	2,883,521

#### 事務局からのお願い

##### 経常会費の改定ならびに納入についてのお願い

平素より桜園会会員の皆さまには、桜園会へのご理解ご協力ありがとうございます。

桜園会は会員の皆さまの経常会費および寄附金等により運営しております。

現在の桜園会の会計は、皆様からの経常会費の低下等による収入減、あわせて、新規会員の増加等による支出増により、大変苦しい状況となっています。そこで、平成26年度総会にばかり、昭和51年より1,000円であった経常会費を平成27年度より2,000円に改定することとなりました。

会員の皆さまには、経常会費の改定についてご理解いただき、経常会費納入にご協力をお願いいたします。

##### ◆桜園会本部経常会費納入(年間2千円)をお願いいたします。(H27.3.1施行)

納入年度	26年度経常会費(1,000円)	27年度経常会費(2,000円)	経常会費合計
26年度・27年度	○	○	3,000円
27年度		○	2,000円

\*65歳以上の会員で希望される方は、終身会員になることができます。

終身会費は一括払いで1万5千円です。(H23.5.23改定)

◆振込用紙に郵便番号、住所(番地、建物名、部屋番号)、氏名(ふりがな)、電話番号を正確にご記入下さい。

通信欄には会員番号(封筒の宛名シール右下)、卒業年・科・勤務先、送金明細をお書き下さい。

\*住所・勤務先の変更、改姓も必ずお知らせ下さい。

##### ◆ご連絡・ご質問の窓口

山口県立大学同窓会桜園会事務局

住 所 〒753-8502 山口市桜島3-2-1

TEL&FAX 083(925)7485(職員在室日は水・金曜日 10時～17時)

E-mail ouhoku@yamaguchi-pu.ac.jp

山口県立大学のホームページからもアクセスできます。

(http://www.yamaguchi-pu.ac.jp)

\*桜園会では、個人情報保護法を遵守し、取り扱いについては慎重に対応してまいります。

桜園会第35回公開講座  
山口県立大学全学特別講義

「地球環境を救う」

新しいライフスタイルへ

講師 淑徳大学教授 北野 大

平成二十六年十一月十四日

(金) 淑徳大学教授 北野大氏をお迎えして「地球環境を救う新しいライフスタイルへ」と題し、桜園会第三十五回公開講座が開催された。講座に先立つて長坂学長から講演会の位置づけの説明がされ、この講座は県立大学全学特別講義であること、また今回は時事通信社の寄付講座でもあるということであった。

北野教授は一九四二年東京生ま



く。  
地球温暖化のメカニズム、温  
暖化の具体例としてのヒマラヤ  
氷河の融解の様子の写真、世界  
の二酸化炭素の排出量の比較  
も示された。国としては中国が  
世界の四分の一を占めるが、一人  
当たり排出量でみると、アメリ

カ、韓国、ロシア、日本と続くと  
いう。「二酸化炭素濃度は産業革  
命後急速に増加したものであ  
ること、人類のエネルギーの利  
用の歴史を振り返って考えてみ  
る必要がある。電気と同じ二次  
エネルギー源としての水素が最  
近の話題となっている。現代社  
会とエネルギーの関係を考える

と、エネルギーを投入し時間を  
短縮していることに気付く。低  
酸素社会を目指す有効な手立て  
として、生き方を見つめなお  
すことを提案されて締めくく  
られた。

(平成24年大学院国際文化学  
修了 原田記)

ドレール」と話し始められ、つい  
で弟のたけし氏とのエピソード  
も紹介。来場者の心をほぐさ  
れたところから急転直下、二十  
世紀の人類が抱えている課題  
について言及、本題へ。資源枯渇  
問題をどう考えるか、エネルギー  
資源の視点、鉱物資源が使  
えない状態への変化にどう対応  
するか、また気候温暖化問題  
などなど、専門的な話題が続

三年前、東京の大学生だった  
息子と、住所だけを頼りに迷い  
に迷つて、先生のご自宅に伺った  
ことがあります。ちょうど奥  
様とお嬢さんの茜さんもご在  
宅で、先生も、通院はしていらっしゃ  
るとのことでしたが、お元  
気なお顔を拝見してうれしく  
思いました。中川洋子先生急逝  
のこと、山口一の坂川の螢の様  
等々、近況もお話でき、しみじ  
みと懐かしい思いでおいとま致  
しました。

その年の年賀状には、「八十  
四歳、もうひとふんばりしよう

六月八日、新聞紙上で先生ご  
逝去の報に接し、十五日のご葬  
儀には、同期の小畠泰子さんと  
参列致しました。

小学校教員になり、子ども達と  
関わり始めて、やつと先生の児童  
文化に対するお考えや、書かれた  
絵本の魅力に気が付きました。  
ご縁があつて古田足日先生と繋  
がつていると感謝しています。  
「子どもたちに平和なあしたを」  
と、自分から答えを見つけるまで  
まつしまう度に、

「で、順ちゃんはどうなの。」  
と、自分で答えるまで  
まつしまう度に、

追悼 古田足日先生へ  
昭和55年児童文化卒  
井上 順子

と思っています。」と、お返事をい  
ただきました。

学生時代、先生の講義は知識不足の私には難しく、卒論でも停  
まつしまう度に、

「で、順ちゃんはどうなの。」



謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆教職員  
旧職  
旧職  
旧職  
旧職  
旧職  
旧職  
旧教  
旧教

森下吉時	高雄和人	H23
松浦田智	恭三子	H25.8.22
古田足日	一男	H26.8.8
坂千駄三宅	忠至義子	H26.11.20
		H26

◆会員  
S30食物 S27国文 S24国語 S37被服 S24育児 S34国文 S39被服 H18看護 S28国文 S36被服 S45保育 S20家事 S32児童 S30食物 S40国文 S33国文 S62食管 S22国語 S30被服 S30食物 S43国文 S59被服 S19家事 S24被服 S24被服 S18家事 S19裁縫 S43食物 S28国文 S25国語 H25国語 S35保育 S30食物  
佐藤康子 H24.12.26  
重国淑野 H25.3  
渡辺妙子 H25.4.22  
田中須美子 H25.5.24  
長谷村孝子 H25.6.12  
國近正子 H25.8.28  
渡辺淑子 H25.9  
日置奈津子 H25.10.20  
池田昌子 H25.10.28  
加藤協子 H25.11.4  
原田裕子 H25.12.22  
渡邊千恵子 H25.12.28  
河野フミ子 H25  
渡利貞子 H26.1.4  
錦谷早苗 H26.1.7  
清木里江 H26.1.15  
山中杉井チアキ H26.3.6  
末田禮子 H26.5.1  
柏木綾乃 H26.5.3  
渡邊清美 H26.5.14  
藤井智江 H26.5.16  
山田廣土苗 H26.5  
山根純子 H26.7.19  
山田恵美子 H26.8.5  
森重ソ子 H26.8  
伊藤陽子 H26.9.14  
合田保子 H26.9  
橋本敬子 H26.10.27  
富永千尋子 H26.11.21  
藤田千重代 H27.1.9

## 第十四回桜園会賞 受賞報告

### 第14回 功劳賞

同窓生としての  
誇りと使命

藤井 紗代



この度は、國らずも、身に余る  
輝かしい賞をいただき、感激（入で）  
深く感謝致しております。

同窓生の多くの方々がいろいろ  
な分野ですばらしいご活躍をされ  
ておられますのに私が、との戸惑  
いがありました。が、ともあれ先輩  
としての立場で皆様を代表して  
お受けしたと思つております。私  
は、卒業後すぐに附属幼稚園に就  
職し、定年までの長い年月勤めさ  
せていただきました。有能なスタッ  
フに恵まれ支えられて、職責を全  
うすることが出来ました。附属幼  
稚園の役割の中に幼稚園教育実  
習指導が課せられており、目的意  
識を強くもつた学生さん達と一緒に  
保育実践を行いながら、児童教  
育の在り方を究明して参りました。  
そこで子どもの心を育む「幼  
児教育宮野イズム」が樹立され  
た。

モットーとして卒業生の皆様  
は、幼稚園保育所、養護施設や  
小学校へ就職され、直向的な努  
力を重ねて素敵なりーダーと  
して活躍されました。近頃では、  
コミュニケーション活動や子育て  
支援活動に携わっておられる方  
も多く、使命感をもつてのお勧  
めに敬服し、同窓生としての誇  
りを感じます。

終わりに母校山口県立大学  
と同窓会の益々のご発展を祈念  
し、お礼のご挨拶といたします。  
  
(昭和28年児童卒)  
  
今年度は新たに23名の団員  
を迎えて活動してまいりました  
た。八月に行われました第53回  
全日本吹奏楽コンクール山口県  
大会では大学B部門において二  
年連続金賞を受賞いたしました  
た。また、十二月には山口県立  
大学桜園会館にて一年間の集大  
成となる第12回定期演奏会を行  
いました。今年は「アミューズ  
メントパーク」をテーマにし、お  
客様に楽しんでいただけるス  
テージを企画しました。桜園会  
をはじめ多くの方々にご支援い  
ただき、今年も盛大に開催する  
ことができました。

### 第14回 奨励賞

桜園会奨励賞を  
受賞して

吹奏楽団BLAZE

馬場 一栄

この度、桜園会奨励賞を受賞  
しました。吹奏楽団BLAZEで  
す。このような賞をいただくこ  
とができ、誠に嬉しく思いま  
す。

私たち吹奏楽団BLAZEは、  
キヤンバス内の音の文化を創造  
するとともに、大学と地域のつ  
ながりを持つという目的で、本  
学の楽団として二〇〇三年五  
月に発足し、今年で創立12年目  
を迎えました。主に学校行事や  
桜園会総会、地域行事などで演  
奏活動を行っております。

## 桜園会賞応募要綱

平成27年度からは3つの領域となりました。

**功労賞**は、  
卒業後の会員の活動をたたえ  
①地域社会の文化の振興  
②生活文化の創造や普及  
③文化的環境づくり  
④地域社会や文化を担う人材育成  
寄与する活動をしている会員若しくは会員が主催するグループや団体に授与されます。  
桜園会本部あるいは支部の推薦、または他の会員の推薦を受けて応募して下さい。

**奨励賞**は、  
卒業後の会員(原則として50歳未満)の活動を支援し、上記①~④の活動が期待される会員若しくは会員が主催するグループや団体に授与されます。  
桜園会本部あるいは支部の推薦、または他の会員の推薦を受けて応募して下さい。

**学生賞**は、  
準会員(在学生)の活動を支援し、上記①~④の活動が期待される準会員若しくは準会員が主催するグループや団体に授与されます。大学教職員の推薦を受けて応募して下さい。  
なお、受賞者は選考委員会の審査を経て、桜園会理事会で決定されます。

**応募手続き・問い合わせ**  
所定の様式に必要事項を記入のうえ、山口県立大学同窓会桜園会事務局に提出してください。

### 応募日程

- (1) 応募期間: 平成27年6月1日から8月31日まで(当日消印有効)
- (2) 結果発表: 平成27年10月(予定)

と確信しています。この精神を  
モットーとして卒業生の皆様  
は、幼稚園保育所、養護施設や  
小学校へ就職され、直向的な努  
力を重ねて素敵なりーダーと  
して活躍されました。近頃で  
は、コミュニケーション活動や子育て  
支援活動に携わっておられる方  
が多く、使命感をもつてのお勧  
めに敬服し、同窓生としての誇  
りを感じます。

今年度は新たに23名の団員  
を迎えて活動してまいりました  
た。八月に行われました第53回  
全日本吹奏楽コンクール山口県  
大会では大学B部門において二  
年連続金賞を受賞いたしました  
た。また、十二月には山口県立  
大学桜園会館にて一年間の集大  
成となる第12回定期演奏会を行  
いました。今年は「アミューズ  
メントパーク」をテーマにし、お  
客様に楽しんでいただけるス  
テージを企画しました。桜園会  
をはじめ多くの方々にご支援い  
ただき、今年も盛大に開催する  
ことができました。

今年度は新たに23名の団員  
を迎えて活動してまいりました  
た。八月に行われました第53回  
全日本吹奏楽コンクール山口県  
大会では大学B部門において二  
年連続金賞を受賞いたしました  
た。また、十二月には山口県立  
大学桜園会館にて一年間の集大  
成となる第12回定期演奏会を行  
いました。今年は「アミューズ  
メントパーク」をテーマにし、お  
客様に楽しんでいただけるス  
テージを企画しました。桜園会  
をはじめ多くの方々にご支援い  
ただき、今年も盛大に開催する  
ことができました。

いきたいと思います。これから  
も温かく見守っていただければ  
幸いです。ありがとうございます。  
(社会福祉3年)



## 学内ギャラリー



「旭日」上田錦穂 (S29被服卒)



松井富美子 (S30被服卒)



「殿入櫻」土光洋子 (S32児童卒)

会員近況報告

## 職業人として

内田 仲

山口女子大学一期生として卒業後、高校家庭科教員として働いてきました。県内の県立高校に勤務し高校生や教職員との出会いがあり日々やりがいを感じてきました。現在は教職員の研修を行う施設「やまぐち総合教育支援センター」に勤務しています。

山口県では、近年教職員の大量退職、初任者の大量採用を迎え、研修の重要さも問われているため、センターではこの喫緊の課題を解決すべく、微力ながら日々奮闘しています。そのような中、様々なステージを与えられた現在の自分がいるとき、これまでの経験が役に立っていることなどを強く感じます。さらには、仕事を持つて社会とコントラクトを持ち、無意識に自分の才能を開花させていただいたことに感謝しています。

管理職として、時には厳しい判断を迫られる時もありますが、女性目線での気配りや寄り添い方、OJTの仕方などがあるのです。生徒を育てる視点から教職員を育

成するという時に、その方々の無限の能力を發揮できるよう、これからも精進していきたいと考えています。

(昭和54年被服卒)

会員近況報告

## 奈良の魅力を 全国へ発信

倉橋みどり



(やまぐち総合教育支援センター)

最近では、古事記編纂三〇〇年を機に奈良県が取り組んでいる「記紀万葉プロジェクト」で、子ども向けの「古事記かるた」や、天皇皇后両陛下にもご覧いただいた大古事記展の図録の編集にも関わりました。

また、少しずつ書籍の仕事も

増え、淡交社から出版された

「奈良大和路の紅葉」では文章

を書かせていただきました。子

どもの頃から、文章を書くこと

が好きで、活字に関わる仕事を

したい、いつか本も出せたらと

願っていました。なかなか休み

もとれない忙しい日々ですが、

夢がかなつて本当に幸せだと

思っています。

これからもできる限り長く、

深く奈良の歴史や文化と関わ

りながら、全国に奈良の魅力を

発信するひとりであり続けた

いと思います。

これで奈良の魅力を全国へ発信するひとりであり続けた

いと思います。

このまま奈良で、フリーの編集者・ライターとして働いています。専門分野は奈良の歴史や文化と寺について。学生時代は苦手

だった日本史も古典も、歴史が

くらしに溶け込んでいた奈良

では、自然と頭に入ってくるよ

うで、いつの間にか少し詳しく

なりました。

雑誌や新聞に依頼された文

章を書いたり、カルチャースクールの講師も引き受けています。

最近では、古事記編纂三〇〇

年を機に奈良県が取り組んで

いる「記紀万葉プロジェクト」で、

子ども向けの「古事記かるた」

や、天皇皇后両陛下にもご覧いた

いた大古事記展の図録の

編集にも関わりました。

また、少しずつ書籍の仕事も

増え、淡交社から出版された

「奈良大和路の紅葉」では文章

を書かせていただきました。子

どもの頃から、文章を書くこと

が好きで、活字に関わる仕事を

したい、いつか本も出せたらと

願っていました。なかなか休み

もとれない忙しい日々ですが、

夢がかなつて本当に幸せだと

思っています。

これからもできる限り長く、

深く奈良の歴史や文化と関わ

りながら、全国に奈良の魅力を

発信するひとりであり続けた

いと思います。

このまま奈良で、フリーの編集者・ライターとして働いています。専門分野は奈良の歴史や文化と寺について。学生時代は苦手

会員近況報告

## 手仕事に 想いを繋ぐ

高畠 海



私は本学が山口県立大学、つまり共学になってから二期目の男子学生として、そして最後の家政学部生活デザイン学科の学生として学んだ。

縁あって在学中より多様な

ジャンルでプロとして活躍されて

いる方々と接し、仕事として関わる機会を持つことができた。

大学院修了後も友人であるエク

アドルのミュージシャングループ

の舞台衣装や装置の制作・プロ

デュースに携わり、表現の場を得

た。その後の一〇〇八年、東京自

由が丘にて洋服のお直しとカ

フエの複合ショップ「nucafe」の

オープンに参画し、今ではそのお

直しを「手に担当している。

お直しにはサイズやデザイン

を変える作業と、生地や素材の

傷みを補修する場合がある。こ

のような仕事は、かつて世界の

至る家庭の中で行われてきた。

今、私が預からせていただくも

の中にはご両親や祖父母、親

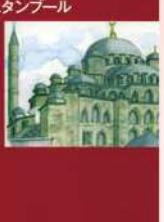
類などの大切な方から譲り受けたというお品ものが少くない。そこには手が入れられた跡を見ることがある。

今、人生の伴侶を得て、三人の子の親となつた。私はこの家庭の中で、この手で、何が残せるだろうか?

## ■新刊紹介 ■ 「あこがれのイスタンブル 77日の絵日記」

どうひろこ 著

(土光洋子 昭和32年児童卒)  
株東洋書店(一、〇〇〇円+税)



あこがれのイスタンブル  
77日の絵日記  
どうひろこ 著  
(土光洋子 昭和32年児童卒)  
株東洋書店(一、〇〇〇円+税)

『奈良 大和路の紅葉  
(奈良を愉しむ)』

桑原英文・倉橋みどり 著  
(平成2年国文卒)

淡交社 (一六〇〇円+税)



奈良 大和路の紅葉  
(奈良を愉しむ)  
桑原英文・倉橋みどり 著  
(平成2年国文卒)

淡交社 (一六〇〇円+税)



## 東海支部創立三十周年を迎えて

東海支部長 菊川 苑子

東海支部は今年、創立三十周年を迎えました。十一月二十二日（土）、晚秋の紅葉美しい徳川御三家ゆかりの地、名古屋徳川美術館の宝善亭にて会長の福田百合子先生、江里健輔理事長と土田敏子理事をお迎えし総会を開催することができました。

久し振りに出席の方や、三重の志摩市と遠くからの先輩など例年より沢山の出席者でした。

美術館で源氏物語絵巻特別展を慌ただしくみて、福田先生の源氏物語の講演をお聴きし、通読したい気持にかられました。江里先生には、医師としての立場から貴重なお話を聴かせていただき、先生方の若々しさ、あのパワーはどこから出ているのかと逆に元気をいただきました。五月に山口の本部総会で頂いた。五月に山口の本部総会で頂いた桜園会創立七十周年記念のDVDを見て、宮野の青春時代を懐かしく思い出しました。

東海支部創立時の資料、プロ級の写真の数々、花の描写など先輩の作品も皆で感嘆しながら見せていただきました。

今年の支部総会に初めて若い男性卒業生が出席され、大歓迎でした。

世代はさまざまでも、同窓という縁で結ばれ、一堂に会する

ことの幸せを思いながら、楽しい一日を過ごすことができました。（昭和40年食物卒）



## 山口支部は今年五十周年を迎えました

山口支部長 原 ひろ子

山口支部は今年五十周年を迎え、ただ今「五十周年のあゆみ」を作成中です。



昭和三十九年三月一日の創立以降、先輩方が料理づくりや講演会、四年制大学昇格運動等に参加・協力しながら、活動を進めてこられました。

平成十年、規約・担当役名、六十五歳での役員就任（任期一年）等が決定し、盤石な支部組織ができました。今年は六月一日（日）セントコア山口で総会を開催し、新学長の長坂先生から「人材を育成し、将来的には県大ブランドを創っていきたい」という意

気込みのご挨拶をいただき、福田百合子会長からは温かい雰囲気の中、同窓会の中核である山口支部への期待を込めたお話を伺いました。記念事業として「童謡詩人金子みすゞの心を歌う歌手・作曲家のちひろさんのコンサート」を企画し、約六十名の参加者とともに感動のひとときを過ごしました。

また、十一月の親睦研修旅行では九州国立博物館の「特別展 台北故宮博物院展」の鑑賞と「大宰府天満宮」を参拝し、年代を超えた交流の輪が広がった楽しい時間を持つことができました。これからも県立大学のお膝元の山口支部として、大学や同窓会主催の公開講座等へも積極的に協力していきたいと思っていま

す。（昭和44年食物卒）

### 桜園会支部リスト（平成27年1月現在）

支部名	支 部 長 名	支部会員数(名)
関 東	井上 多智美(食管57)	833
東 海	菊川 苑子(食物40)	151
近 縛	中島 久実(食物46)	696
広 島	松原 正美(国文33)	664
四 国	村松 幸子(食物35)	323
北 九 州	森岡 幸子(被服45)	465
福 岡	臺 俊子(被服43)	452
佐 賀	久保由美子(食物49)	141
大 分	栗屋 文世(国文44)	286
岩 国	友田 美美(食物33)	259
柳 井	矢野 啓子(食物45)	228
下 松	小田 玲子(児文56)	348
徳 山	藤井由美子(国文45)	396
防 府	石丸真由美(児文59)	497
山 口	原 ひろ子(食物44)	1,521
萩	藤井 郁子(国文47)	175
長 門	阿波 昌子(被服33)	139
宇 部	池田 博子(国文49)	819
小 野 田	竹内 典子(児文60)	191
下 関	福田 裕子(食物50)	523

### 編集後記

桜園会は創立七十周年を迎えました。女專以来変遷を重ねながら培ってきた長い歴史を思わずにはいられません。各支部も、多くの困難を抱えながら活動を続けておられます。在学生も広い分野で活躍中です。

時を越えて、学び舎の窓を同じくする者同士のご縁を大切にしたいと思います。その繋がりが、母校の発展を支える力となることでしょう。

会報が母校への思いを繋ぐ一助となれば幸いです。（熊本記）